

# 献血離れ 地震が拍車

## 県内 ルーム被災、巡回中止

# 41年ぶり7万人割れ

### 16年度見込み

2016年度の県内献血者数が41年ぶりに7万人を割る見込みとなったことが6日、県赤十字血液センターのまとめで分かった。若年層の献血離れに歯止めがかからず、熊本地震で被災した献血ルームの休止や巡回献血の中止が大きく響き、前年比16・1%減の6万2580人にとどまるという。

血液センターによると、昨年4～12月の献血者数は4万4668人で、今年1～3月は1万7912人と予想。年代別（1月末現在）では、10～60代の全年代で前年度を割り込み、なかでも20代は23・9%減の7372人と大きく減った。

熊本県は2000年度までの22年間、人口に対する献血延べ人数の割合で全国1位を誇ったが、1984年度の19万7177人をピークに献血者数は減少傾向が続いている。昨年4月に発生した熊本地震の影響も深刻だ。熊本市中央区の下通ルームは壁にひびが入り、電灯が外れるなどの被害を受け、前震翌日の4月15日から78日間、献血を中止。東区の日赤プラザ献血ルームが24日間、移動献血も31日間それぞれ休止し、合計8482人の献血に影響が出た。全国の血液センターからの供給で血液不足を乗り切ったものの、被災時の課題も浮き彫りに。交通網の乱れで県内各地への供給に通常の2～3倍以上の時間がかかったという。

日本赤十字社は2027年に、全国で約85万人分の血液が不足すると推計。県は20年度までに、低迷が目立つ20代の献血率を6・7%から8・1%に上げるなど年代別の目標を設定。高校での献血やセミナーの開催、大学セミナーの開催、大学生ボランティアによる同世代への啓発活動などを進めている。

血液センターの早川和男推進課長は「熊本地震発生時には全国の応援に助けられた。献血者を増やし、他県で災害があった時には恩返しにつなげたい」と話している。

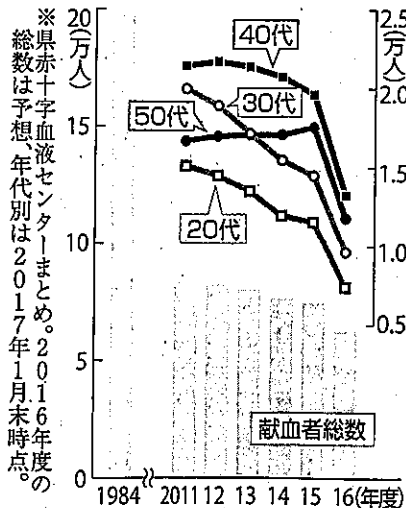
（九重陽平）

県空手道 感謝料請  
大会  
熊本  
県空手道  
された熊本  
盟に登録す  
重ら25人が  
催の大会に  
られなかつ  
県連盟に精  
感謝料など  
円を求めた  
で、熊本地  
請求を棄却  
一本文智  
大会に出る  
県連盟に加  
に登録する  
となってい  
「県連盟は



天井から照明が外れるなどした熊本地震本震直後の下通献血ルーム

昨年4月16日（県赤十字血液センター提供）



※県赤十字血液センターまとめ。2016年度の総数は予想。年代別は2017年1月末時点。

中では矢旗の色付け作業の真ただで、のりで形を付けた木綿布に濃淡をつけながら染料を塗り、勇壮な武者絵を描いていた。矢旗は長さ2～8.2mで、虎退治する加藤清正など約20種類の絵柄がある。

同社の平本靖二会長(88)は「子どもたちが震災に負けず、強くたくましく成長することを願っている」と話していた。(高見伸)

生産ピーク 八代市 市午り 日

